

## 第14回木の建築フォーラム／つくば 成果報告

本事業は、平成22年度木のまち・木のいえ整備促進事業補助金を受けています。

### ●事業の名称：

木造住宅・建築物等の整備推進に関する普及を行う事業

### ●テーマ：

よくわかる木のはなし—木材および木質材料に関する知恵と知識

### ●開催時期：2011年2月25日、26日

### ●場所：(独)森林総合研究所、牛久中央生涯学習センター

詳細は会誌「NPO木の建築」30号P1～P21に収録しており、NPO木の建築フォーラム事務局にて閲覧できます。

以下、木の建築フォーラム通信No.59(2011.3.)より

### 第14回木の建築フォーラム／つくば 開催報告

NPO木の建築フォーラム主催の『第14回木の建築フォーラム／つくば』は、『「よくわかる木のはなし」—木材および木質材料に関する知恵と知識—』というテーマで、2011年2月25日(金)に(独)森林総合研究所(森林総研)見学会、26日(土)にシンポジウムが開催されました。

1日目の見学会には定員(30名)を超える応募があり、52名の方々にご参加いただきました。4時間もの長時間にわたり、森林総研所蔵の標本や樹木園、施設、世界最大級の木材引張試験機による集成材の引張試験の実演や本邦初の構造用集成材等をご覧いただきました。

森林総研主催の設計コンペで最優秀賞を獲得し、森林総研の敷地内に実際に建設された実験住宅(通称：近未来の木造住宅)は、24mm厚の構造用合板耐力壁と、快適性を担保するための土壁を併用している点が特徴です。この住宅の見学では、参加者の皆様から矢継ぎ早にご質問やご指摘をいただき、予定の見学時間30分があつという間に過ぎ去っていました。



「近未来の木造住宅」見学の様子

見学会後の情報交換会には、18名の方にご参加いただきました。京都や愛知、山形、福島などの遠方からご参加くださった方がいる一方、地元の牛久からご参加くださった方もおり、バラエティに富んだメンバーが親交を深める場となりました。

2日目のシンポジウムには約100名の方にご参加いただきました。

司会による開会・趣旨説明の後、坂本理事長から挨拶があり、引き続き、森林総研の研究コーディネータである林知行氏より「今さら人には聞けない木のはなし」と題する講演がありました。



会場の様子

林氏は軽妙な語り口で樹木・木材・木質材料に関する基礎知識について話をされ、会場のみなさんも林氏の話に引き込まれているようでした。

午後からは、河合直人氏の司会でパネルディスカッションが行われました。宮内建築の宮内寿和氏は、「大工が取り組む木材の品質管理」というタイトルで水中処理乾燥等の実践を紹介されました。松井郁夫建築設計事務所の松井郁夫氏は、木の家に住みたいと考えている住まい手と腕をふるいたいと考えている作り手のギャップを埋める作業を「木組の家」で

『第14回木の建築フォーラム／つくば』では、木材・木質材料に関する知識の再確認と、木材および木質材料について深く考える機会を提供するという目的が達成できたのではないかと思います。

シンポジウムの詳細については、会誌『NPO木の建築』で特集する予定です。

第14回木の建築フォーラム／つくばの資料集は、フォーラム事務局にて1冊2,000円で販売しております。ご入用の方はお問い合わせください。（詳細案内はP.7）。

（文責：杉本健一）



パネルディスカッション

行っていると語られました。(株)木質環境建築の川原重明氏は、「私と木材・木質材料との係り」のタイトルでご自身のお仕事の一端と木材及び木質材料への期待を語られました。森林総研の長尾博文氏からは「製材の品質と強度」のタイトルで製材の強度に及ばず因子について、桃原郁夫氏からは「木材の耐久性」のタイトルで腐朽やシロアリ対策の考え方と保存処理剤の安全性について、渋沢龍也氏からは「構造用面材料」というタイトルで合板、OSB、パーティクルボード、MDFの特徴とデータの蓄積状況について話題提供がありました。その後、総合討論となり、活発な意見交換が行われました。

最後は有馬代表理事が、「木材・木質材料に対する思いは人それぞれである。自分の知っている範囲でしかものを語れず、それをはずれたらみんな素人である。それぞれが使っている単語の了解点をもつことが重要であり、そのためにはざっくばらんな話をするのが大切である。」とまとめられました。

シンポジウム終了後は、国指定重要文化財に指定されているシャトーカミヤの見学会と、シャトーカミヤ内のレストランキャノンで懇親会が開催（47名参加）され、歓談で大いに盛り上がりました。